

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタススペース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

日本の司教団の要請に応え、9月17日（日）～26日（火）まで、教皇庁福音宣教省長官のフェルナンド・フィローニ枢機卿が日本を訪問されました。22日（金）には福島のカリタス南相馬のシスター畠中が、福島原発事故のため今なお苦しい状況に置かれている現状について話され、その後、元寺小路教会において、「震災被災者の心の癒しと、仙台教区に祝福を求めるミサ」がささげられました。参加した人々はみな、非常に励ましと力をいただきました。大船渡教会では、新しい「ボッチャを楽しむ会」を始め、利用者さんたちも喜んでなさっています。新しく改修された亘理教会で行われた八木山オリーブの会主催の芋煮会の様子とあわせてご紹介いたします。

教皇に伝えてほしい、 原発事故により故郷に帰れない「難民」の存在……

カリタス南相馬 所長 畠中ちあき（聖心会）

バチカンより来日した福音宣教省長官フェルナンド・フィローニ枢機卿は、9月22日、教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教、菊地功司教、平賀徹夫司教、小松史朗神父、イタリアから通訳として随行した和田誠神父、カトリック司教協議会秘書の宮下良平神父、職員の松隈康史氏と共に、カリタス南相馬を訪れました。

枢機卿一行は、大阪から11時頃に仙台空港へ到着後、宮城県の津波被災地域と福島県の津波被災地域及び原発事故の被災地域を視察され、18時30分から仙台教区カテドラルでミサというスケジュールになっていましたが、機材繰りの影響で仙台空港へ大幅に遅れての到着になるとの連絡がありました。そのため、特に、6年半経っても手つかずの場所がたくさんある原発事故による被災地域をきちんとご案内できる時間があるかどうか、ハラハラしていましたが、小松神父の気転のきいた計らいで、何とか限られた時間の中で、「今もなお苦しい生活」の原因となる地域をご案内できたことは、うれしいことでした。

一行が無事に仙台空港へ到着され、宮城県沿岸部を經由して南相馬にご到着後、まずは南相馬のレストランで昼食を召し上がっていただきました。それから、原町教会・さゆり幼稚園・カリタス南相馬の敷地へのご案内いたしました。

原町教会の信徒の方々と言葉を交わされたのち、高野郁子信徒会長から、被災当時の教会の様子や信徒の皆様の被災状況を説明していただきました。「まだ避難されている方もおり、もともとの信徒の方で主日のミサに来られる方々は10人程度で、ボランティアで来られている方々と共にこの小さな教会を守っている」ということなどを話されました。フィローニ枢機卿は、「原発事故による被災者の思いを届けたい」と会いに来られた方など、皆さんが語る言葉に頷きながら耳を傾けておいででした。



さゆり幼稚園を実際に見学しながら説明を受ける枢機卿（写真左）
原町教会信徒へローマからのお土産を手渡しされる枢機卿（写真右）

隣接するさゆり幼稚園の園舎内については、菊地功司教様からご説明いただきました。原発事故後、この地域の皆様も一度ならず、複数回避難された経験があります。市内の幼稚園、小学校、中学校、高校も一時閉鎖になりましたが、少しずつ園児、児童、学生が戻ってきました。戻ってきた幼稚園の保護者から強く願われて、2011年11月にさゆり幼稚園を再開したものの、園児は徒歩での通園や外遊びなど、

屋外の活動を禁じられていました。その時に、子どもたちが安心して遊べる室内遊び場としてカリタスジャパンの支援で完成した屋内砂場とジャングルジムをご覧になりました。※1 ニュースレター第34号掲載

その後、福島第一原子力発電所に近い、原発事故による被災地をご案内いたしました。今なお帰還困難区域と隣り合わせの避難指示解除区域の現状や、放射能廃棄物の入ったフレコンバッグの積み上げられた「仮の仮置き場」の様子、各家の前にバリケードが張り巡らされている光景など、現実を見ていただきました。

原発事故により、被災から6年半がたっても故郷に帰れない「難民」が日本国内に存在している課題の重さを感じていただければ幸いです。そして、その思いを教皇フランシスコにもお伝えいただけたなら……



福島県富岡町岡内東児童公園内に展示されている津波で被災した
福島県警双葉署のパトカーの前で献花を行う枢機卿と教皇大使

「震災被災者の心の癒しと、仙台教区に祝福を求めるミサ」

18時30分、フィローニ枢機卿を迎え、平賀徹夫司教の主司式、教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教、菊地功司教、幸田和生司教、仙台教区司祭と仙台での司牧協力司祭団による共同司式ミサがささげられました。このミサには、仙台市内からはもとより、福島県、山形県からも参加者が来ておられ、約200人が参加していました。



説教の中で、フィローニ枢機卿は次のように述べました。

日本は他国に類のないキリスト教の歴史を持っています。多くの殉教者を持っている国です。長い年月、日本の教会は、一人の司教も司祭もない中で信仰を守り抜いた稀有な国です。あなた方は、この恵みに満ちたすばらしい人々の子孫です。

仙台に来る前に、私は、福岡、長崎、広島、大阪で祈りをささげ、そして、ここにやってきました。今日は、司教たちと一緒に、津波被害に遭った地域を見て来ました。私は、この大きな苦しみを負った国の人々に私を送ってくださったことに感謝しています。特に、直接、皆様に出会い、知り合ったこと、次に、共に祈ること、津波と地震で、試練に遭ったこの地でミサを捧げることを感謝しています。そして、原発によって、ふるさとを追われた人々のために祈れることに感謝しています。



午後、私と一緒に視察に回ってくださった方と共に、私とともに時間を過ごされた方と共に、私自身の目で見、その悲劇、悲しみをともにしてくださった方、この地で、どれだけの方が亡くなられ、犠牲となられたかを共に味わっています。私たちは、カリタス南相馬を見て来ました。司祭、シスター、ボランティアの方々が、人々の苦しみを共に乗り越えておられる姿に感激しました。

私たちは、このような悲惨な出来事を前にして、「どうしてこのようなことが！」と考えます。いつも出てくる疑問です。

この問いに関して、私たちの助けとなる話が聖書の中にあります。聖書の中のヨブ記です。ヨブとはどういう人でしょうか。一私たち一人一人が、何かの苦しみにとらわれているとき、私がヨブです。説明のつかない悲しみにおそわれるとき、私がヨブです。ヨブは、また、イエス・キリストの前表です。

ヨブは、自分をおそった苦しみの数々に、理由を求めませんでした。ヨブのように信じること、祈ることは、私たちにとって、唯一の賢明な道です。



最後に教皇フランシスコの愛情を示すことで終わりたいと思います。教皇様は、「いつも皆さんのために祈っています。みなさんがいただいた信仰の恵みを他の人々に伝えてください。聖母マリアの保護に、皆さんの家庭を委ねます。神様の愛、キリストの愛は、皆さんの力になるでしょう」と伝えてくださいとのことでした。

「ミサの最後の祝福は、教皇が皆さんにくださった教皇祝福を特別に与えます」ということで、参加者は荘厳な祝福をいただきました。

ボッチャを楽しむ会

カリタス大船渡ベース 休石 千枝・大河内 愛

大船渡ベースでは、2016年リオデジャネイロ・パラリンピックで日本代表チームが銀メダルを獲得したことで知られるようになった「ボッチャ」を楽しむサロン活動を行っています。今回は、この人気の「ボッチャを楽しむ会」について、ご紹介します。

ボッチャとは？

ボッチャは、1988年のソウルパラリンピックから正式種目になった、身体が不自由な方でも高齢者でも小さな子どもでも出来る、カーリングに似たスポーツです。目標となる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競うものです。また、誰もが一緒に楽しめるユニバーサルスポーツであることから、地域における生涯スポーツ推進のネットワーク作りにも寄与すると考えられています。



ボッチャを知ったきっかけ

今まで、仮設住宅でのサロン活動を中心としてきましたが、集約が始まり、徐々にベースでの手芸や折り紙などの活動が増加していきました。利用者の中には「私はそんな細かいこと、やんだ(嫌だ)もの！」とおっしゃる方もいらっしゃいました。それなら「何か、体を動かすもので良いものはないか…？」と思っていた時、利用者の方が市内のボッチャ大会に参加しているという話題をされたので詳しくお話を伺いました。すると、その方がボッチャ用具を借りて来てくださり、私たちに教えてくださいました。

はじめてのボッチャ

イベントとして行うにはちゃんとルールを学ぼうと、福祉の里センターから講師2名をお招きしました。

最初に別のゲームをしてボールの転がり方や弾み方などを確認しました。普通のボールと違って、いびつで弾まず、ずっしりと重いボールの扱いに苦労しました。

その後、ボッチャを実践しました。経験者の方の投げ方を真似してみますが、なかなかうまくいきません。笑いに包まれながらはじめてのボッチャは終了しました。

毎月恒例の「ボッチャを楽しむ会」

初めは誰もが白いボールに向けて自分のボールを近づけることばかり考えて投げていましたが、だんだんとチームプレイを考えるようになりました。経験者の方が細かいルールを教えてくださいました。また、足が悪くてためらっていた方が試合後に頬を上気させ、楽しかったとおっしゃることもありました。



ボッチャのおもしろさの1つは、投げる人の思い届かずボールが気ままに転がるところです。見ている人が「(投げる人の) 気持ちはわかるけど…」と思わず声に出して言い、皆で大笑いします。最近は皆さん上達し終盤になるとボールコントロールの精度が上がり、それもまた盛り上がります。

男子高校生も夢中になるボッチャ

夏休みにボランティアに来た男子高校生チームと大船渡チームと対戦しました。一試合目、大船渡のおばあちゃんチームから今までにないミラクルボールが次々に放たれ、大船渡チームの圧勝でした。男子高校生は入念に三手、四手先を考え一球を投げ、みるみるうちに優勢になりました。「ボッチャ同好会を作りたい」と話していました。



ボッチャの効果

ベース近隣の方だけでなく少し離れた災害公営住宅からも参加なさる方がいて、ベースが交流の場となっています。男性の参加者もあります。ボッチャはどなたでも楽しめ、頭も使い適度な運動量でオススメです。

亘理新聖堂は集会所として充実 ～オリーブの会芋煮会～ 八木山オリーブの会 野田 和雄

八木山オリーブの会は、仮設集会所でお茶っこを続けるうちに、被災者と仲良くなり、仮設住宅閉鎖後も、集会所を転々と移動しながら活動を続け、昨年、カトリック亘理教会にたどりつきました。

亘理教会でのお茶っこでは、集会所としては教会の集会室を使うのが筋ですが、残念ながらスペース不足で、聖堂の祭壇側を仕切って使っていました。今回、亘理教会改修工事により、聖堂が広くなり、天井収納式の間仕切りが設置されて祭壇側ときちんと区切ることができるようになり、立派な集会所としても使えるようになりました。



じゃんけん大会と囲碁・将棋が、1つのスペースで行われていました

9月27日、この亘理教会新聖堂を初めて使用して、津波被災者の方々と芋煮会を行いました。当日は、津波被災者17名を含む40名が集い、新聖堂完成を喜び、秋の味覚を満喫しました。

芋煮の鍋が仕込まれてから煮えるまでの間は、亘理町民の歌、ビンゴ、じゃんけん、亘理音頭の踊りの練習や手品の披露と盛りだくさん。歌って踊って笑ってにぎやかなうちに、芋煮が出来上がり、お昼時になります。食欲を誘う芋煮の香りが広がると、お椀いっぱい芋煮が配られます。牛肉入りの山形風芋煮は、おいしく、笑顔とおしゃべりの花が満開です。おかわり自由！何杯目？という人も…。

庭では、隣の保育園の子どもたちが、運動会の練習をしています。孫が保育園に通っている被災者は、まぶしそうに見守っています。

今日練習した亘理音頭の振り付けは、次回10月25日、子どもたちに教えて、一緒に踊る予定です。

これまで男女別々の企画の際は、男性は2階和室を利用していましたが、広くなった新聖堂での集まりは、同じフロアで進められるようになりました。また、靴のまま出入り可能で、トイレ・空調も十分。全体を見渡すことのできる広く明るい室内に、喜びの声があがり、これからも多くの人々が来る予感がしました。そして、集会所としても十分なスペースと機能を持っていることを実感できたことに加え、改修工事にあたり、被災者の方々、ボランティアの私たちのことも考慮してくださったことを強く感じられ、改めて感謝しました。

東日本大震災後の傾聴活動が、被災地の教会に来る人を増やし、聖堂の拡張につながったという神の不思議な恵みの体験となりました。これも多くの人々の祈りと支援があったお陰だと感謝しています。

これからは、亘理教会の歩みを支えてゆくのが、オリーブの会の務めだと思っています。教会協働という新しい形の信徒使徒職の働きを続けていけるように、八木山教会、亘理教会一同、心を合わせて祈っています。



みんなで踊って、おいしいものを食べて笑顔あふれる時間を過ごしています



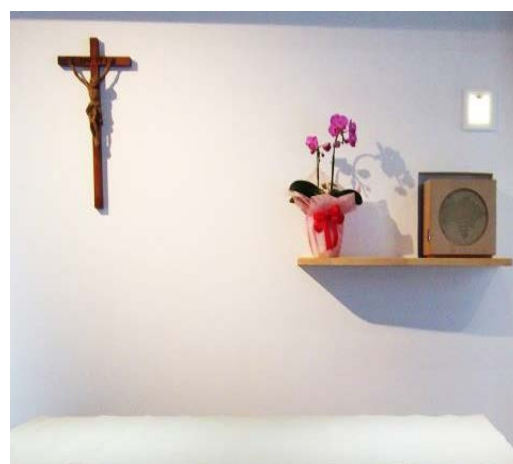
一生懸命練習する保育園児の姿に、ほほえみながら手を振る参加者

「教会協働のシンボルとなった十字架」

「カトリック亘理教会の十字架は、もっと大きい方が新聖堂にマッチするのでは？」そんな意見が、9月初めに行われた祝別式の時に出了ました。

その意見に対し、渡辺彰宏神父様がすぐにすばらしいアイデアを出してくださいました。それは、八木山教会の香部屋にかかっている大きすぎる十字架と、この亘理教会の新聖堂にとっては小さい十字架を交換することでした。さっそく交換してみると、不思議なほど両方の場所にピッタリのサイズです。

私たちは、教会協働のシンボルとして、この十字架が私たちの歩みを見守ってくれていると信じています。



亘理教会にあった十字架(左)



八木山教会から亘理教会へ移された十字架(右)